

「虫媒花粉の多様性」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

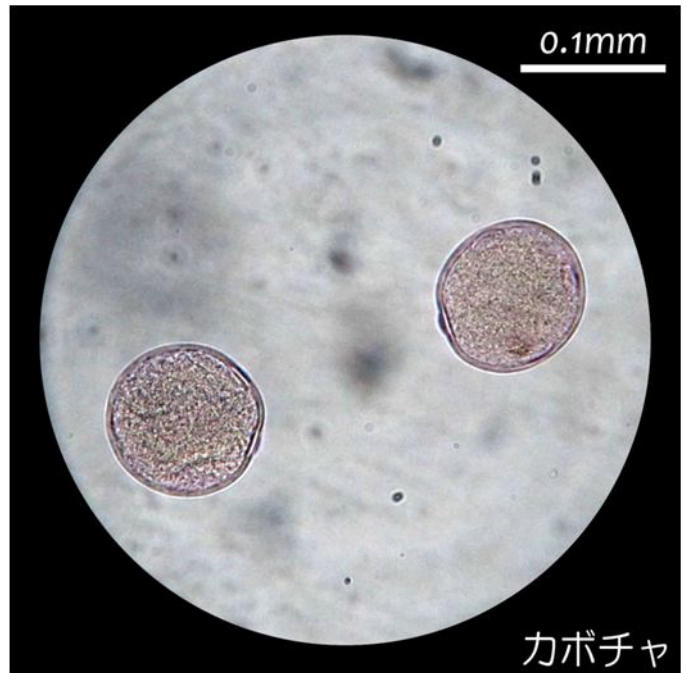
風媒花粉の飛散は、文字通り「風任せ」である。大量に飛散させないと、種族の繁栄は約束されない。種類によっては、地層中に層理として残ることがあるほどである。風は生物ではないので、多様性は存在しない。風の為に、派手な色彩や、蜜を用意する必要もない。植物の立場から見れば、風の吹き方(強さや風向)を予測して進化することもできない。

しかし、虫媒花粉はちがう。花粉を運んでくれるのは虫(主に昆虫)である。別の花に、花粉を運んでもらう為には、さまざまな工夫が必要で、植物はそうのように進化してきた。花(花卉)だけでなく、花粉の形状そのものも、実に多様性に富んでいる。



アサガオの花粉観察は、5年生の教科書にも載っている。学習材が入手しやすく、花粉の大きさや形状も、子どもに観察しやすいからだ。実際にスギの花粉と比較すると、直径は約 10 倍、体積は 1000 倍近くある。同じ比重だとしたら、重さも約 1000 倍近くあるだろう。アサガオの花粉は、少しの風では飛ばされない。むしろ飛ばないほうが、好都合なのだろう。

周囲の突起物も多い。これは虫の足に花粉がくっつきやすくする為の進化だろう。写真では赤く写っているが、これは染料の色である。



同じ虫媒花粉でも、カボチャは変わっている。大きさは 0.1mm もあり、肉眼でも確認できるほどだ。しかし、写真ではアサガオのような、周囲の突起物は一切なく、全縁に見える。ピントの合う高さを変えながら、肉眼で見ると、周囲に微細な突起があることがわかる。カボチャは雄花と雌花が別々に咲く。しかも、花が咲くのは、地面近くである。ハナムグリのような中型の甲虫が、体中に花粉をつけていることもある。ユリの花粉は美しい。いや、花粉はまだ奥が深そうだ。

